



○ 財政等について ○ 国体について

その他の質問

- ・観光誘客等について
- ・子育て支援と教育環境について
- ・上水道の状況について

※実質単年度収支 単年度収支から実質的な黒字要素（財政調整基金積立金、繰上償還）や赤字要素（財政調整基金取崩し）を加減したもので、単年度における実質的な収支を把握するための指標

一般質問

問 平成29年度決算の状況と今後の見込み、及び今後の事業の複合化について伺う。

答 平成29年度の※実質単年度収支は2億8千3百万円の赤字となつていゝる。平成28年度と比較すると改善が図られていゝるものの、依然として厳しい決算状況である。

平成30年度においては、一般財源総額も予算通り確保できる見込みであり、現段階で実質単年度収支は黒字に転じると試算している。

しかしながら、平成29年度末財政調整基金残高は10億円を割込んでおり、事務事業等の検証・見直しや行政サービスの最適化、コンパクトで効率的な組織づくりを進めることで、持続可能な財政運営を目指す。

事業の複合化は、これから一層、不可欠なものになると考える。

今後、事業の推進にあたっては、市民の視点や多様な着想を取り入れながら、企画・財政・施設所の各部門と担当課がプロジェクト・チーム等の設置も含め連携を密にして取り組む。

問 国体について現在までの状況と、運営体制、及び日程の周知や学校教育等での参加状況を伺う。

答 国体に先立ち行われた、炬火リレーは、市内各小学校で熾（おこ）した火を一つにする集火式を行い、その火を「太古から未来へつなぐ勝山の火」と命名した後、市内75区間48キロメートルを450人の市民ランナーがリレーし、盛大に終えたところである。この火は、県の集火式で各市町の火と一つになり、国体期間中、福井県宮内競技場の聖火台に灯され、選手を見守る火となる。

運営体制については、148人のボランティアに登録をいただき、環境美化や売店、休憩所など数々の係員として協力いただくなど万全を期すように努力している。

また、市広報の毎月の「国体コラム」、市ホームページ、公式SNSにて、国体・大会の情報を随時流し、周知に努めている。

学校教育の参加については、国体正式競技のクレー射撃、バドミントン競技と障スポバスケット競技を市内各小中学校が観戦する予定である。



○ 地域共生社会について

その他の質問

- ・小・中学校における学習内容について
- ・長期入院している児童・生徒の学習について
- ・中学校の英語学習について
- ・総合行政情報システムの障害について

一般質問

問 他市で実際にあった事件で、車椅子の男性が入浴施設に来て脱衣室で服を脱ぎ、裸のまま乗ってきた車椅子で大浴場に入ろうとしたところ、従業員から「車椅子は脱衣室までと決まっています」と注意を受け、やむなく車椅子から降りて腕の力で体を支え大浴場に入り入浴して帰った。この男性は元パラリンピックの選手であった。その後、男性と施設側とで話し合いが行われ、施設側は「浴場内は通路幅が狭い場所もあり、床は滑りやすくなっている。また、介護関係の資格を持つ職員がいなかったため、車椅子から降りた人を支えるなどの行為をサービスとして行えない。施設改修には多額の費用が掛かり難しく、安全面や衛生面から認めることはできない」と主張。この施設は民間施設だった為、男性の要望でこの施設が所在する自治体も交えて協議したが両者の主張は平行線のままで終わった。そこで、当市には大浴場が二箇所あるので事件についての当市の見解を伺う。

答 施設管理者にとつて負担になりすぎない範囲で社会的障壁を取り除くことが必要になる。

また、配慮を求めた者、受けた者双方が歩み寄り、納得がいく形で合意することも重要となる。

この共生社会を実現していくためには、地域住民の障害への理解も必要となり、市と奥越地区障害者自立支援協議会が連携して、研修会を開催するなど周知に努める。

「湯つたり勝山」は、高齢者が押し車で来館されるケースがあり、玄関でタイヤの汚れを拭いて入場していただいている。車いすについても同様の取扱いになる。

また、浴室内で車いすで入ることができ、入浴介助については、同伴される介助者に行うていただく必要がある。

「勝山温泉センター水芭蕉」は、施設入り口から脱衣室まで車いすで入ることができる。施設内に入る際、玄関で車いすのタイヤの汚れを拭いて入場していただいている。浴室内はバリアフリーになっていないため、介助者が付き添っての入浴をお願いしている。